

地盤浸食 農業用水に土砂

田の水張り困難 ■梅雨控え不安

霧島 建設中の太陽光発電施設

霧島市霧島の山中で建設中の太陽光発電施設で、10日に降った雨により土砂が大量に流出し、ソーラーパネルの土台を削り取った。「米国のグラウンドキャニオン」と形容されるほど浸食された地盤も出現。敷地の雨が流れ込む、農業用水路を兼ねた近くの河川に大量の土砂が流れ込み、田の水張りができない状況を招いている。梅雨の季節を控え、周辺住民が不安を募らせている。



10日未明に降り始めた雨は夕方ごろに強くなり、午後6時ごろ、時間雨量36ミリを記録した。前日午後9時からの24時間雨量は、139ミリに達した。地元市議の中村満雄さんは11日朝、友人から「発電施設の建設地が大変だ」と連絡を



●深くえぐられた建設用地。「グラウンドキャニオン」と呼ぶ人も
●太陽光パネルの下の土台が深くえぐられていた
いずれも11日、霧島市霧島永水、中村満雄さん提供

受けた。市の部長らとともに現場に急行。敷地内で最も容量の大きい調整池が濁り水で満杯になっていた。

「12時間雨量400ミリの大雨にも耐えられる」と聞いていた。「調整池の機能が完全に失われていた。24時間139ミリの雨でこんなになるのは」。米国の「グラウンドキャニオン」のように浸食された地盤のくぼみ。深さは7、8メートルあった。「シラス大地の柔らかい地質の怖さを感じ知った」と話す。

◇ 発電施設の施工業者は「東京エネシス」（東京）。全国で十数カ所の太陽光発電施設の施工実績があるという。霧島の現場では、敷地約100分のうち48分にパネルを設置したり、調整池をつくったりする。発電の規模は34メガワットで、約1万3千世帯分をまかなう能力がある。昨年着工し、今年度中に完成する予定だった。現在、本体工事を止めて、調整池に詰まった土砂を取り除くなどの復旧作業を急いでいる。また、地盤強化のため、芝を植えることなどを検討している。このため完成時期は延びる可能性がある。

「想定超えた
申し訳ない」

（大久保忠夫）

東京エネシスの広報担当者は朝日新聞の取材に対し、「これまでの実績を生かして対策をとったが、想定を超えていた。農家のみなさんをはじめ、近隣住民の方には申し訳なく思っています」とコメントした。

敷地に降った雨が流れ込む手籠川は、農業用水として使われている。田植えを控え、例年、田に水張りをしなければならぬ時期だが、今季は今のところ難しい状況だ。同社では具体的な復旧計画が固まり次第、月内にも住民に対する説明会を開き、理解を求めたいとしている。